



老舗 コーヒー専門店

京都 イノダコーヒー



東京駅 大丸百貨店 8F
にこの「イノダコーヒー」、10F
には京都 甘味処「都路
里」が支店をオープンさせ
た。コーヒー好きで、おまけ
に甘党には、応えられない
スポットになった。



京都へ訪れたなら、清水寺
へは行かずとも、「イノダコ
ーヒー清水支店」には立ち寄
って欲しい。細部までここ
配りの行き届いた、もてな
しに、京都の老舗を感じさ
せる。

コーヒーの好きの人たちは、豆の産地からブレンドまで、様々な方法で美味しいコーヒーを模索する。そして胃腸が破壊されるまで、飲み続ける宿命を負う。彼らは夢想家でもあり、ゆったりとした時間の流れや、たっぷりの空間を楽しみながら、自分の世界に没入するのが得意である。そして、ピアノソナタなどが僅かに聞こえて、周りの喧騒を遮断すると一層深い至福の時間を楽しむようだ。もちろん食べ物に関しても、そこはかとなくうるさい。そんな人は、まさか京都の老舗「イノダコーヒー」を知らないわけではない。東京駅の大丸百貨店8階に、その東京支店がオープンしたので紹介する。イノダコーヒー製品は関東では取扱店もわずかで、このコーヒーを知っている人にとっては、寂しい思いをしていたに違いない。そのせいか、オープン後は、いつも混みあっている。「イノダコーヒー」を知ったのは、京都の清水寺の帰りであった。蔵のように堅牢な白壁造りに、巨大な垂木をふんだんに使い、大きな1枚ガラスをはめ込んだ店舗が印象的で、コーヒーの味というより、まず、その建物の構造に圧倒されてしまったのである。それでいて、どこか懐かしくモダンでお洒落な造りは、コーヒー好きに憧れの空間を提供する。それ以来、大阪方面へ出向く折には、わざわざ清水店へ立寄るようになり、いつしか「ビーフカツサンド」や「ロースハムを使った軽食」にまで手を広げてしまい。価格を忘れ、ついに「イノダコーヒー」にハマっていったのである。



重厚な入口、京都の言葉でお客は席まで導かれる



関東では入手しにくい「イノダコーヒー製品」が殆んど用意されている。